



かけぼとけ
懸 仏（十一面観音像）

八王子明神町の子安神社に社宝として、直径十九・四cmの「懸仏」が安置されている。青銅製である。

これは、子安大明神の御正体として、天文二十二年（一五五三）十一月、願主の清栄が造立したもの。「新編武藏風土記稿」によれば、清栄は子安神社別当の福傳寺の過去帳にも名を残している。

右・武州多西郡横山庄之内子安大明神

中・十一面観音

左・天文廿二癸卯十一月造立願主

丑権大僧都清栄

敬白

と刻まれている。
八王子市指定有形文化財。

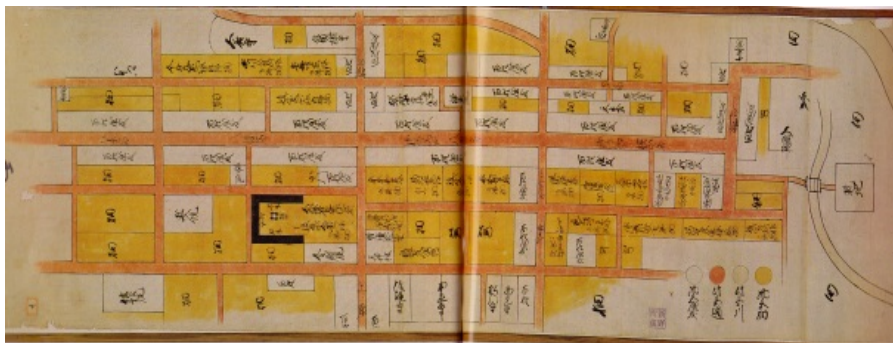
◇散歩のみどころ

JR中央線八王子駅北口から元横山公園まで、八王子十五宿の子安・新町・横山宿一部の4kmの行程。
 旧八王子駅跡を見学後、明治に開通した現中央線以前の甲武鉄道跡を見学。北へ暫く歩き、祝事、行事で有名な子安神社へ。さらに、廃物毀釈された仏像が安置されている福傳寺へ。戻って、旧京王線の東八王子駅を通り、甲州街道に出て都立南多摩中等教育学校に着く。街道を西へと歩き、西の市で賑わう市守・大鳥神社を参拝後、旧甲州街道を北へと歩き、閻魔様が安置されている十王堂へ。ここから右に折れると、力士や星布、生姜祭りで有名な永福稻荷神社、竹の鼻一里塚跡へと続く。さらに浅川の堤防を歩き、浅川に架かる戦跡の大和田橋を渡る。八王子ホテルニューグランドを見て、北側の堤防を西へ歩く。刑場跡、そして水道管橋を見ながら元横山公園で解散。

【八王子十五宿】

江戸期の甲州街道の宿名「新町・横山宿・本宿・八日市宿・寺町・八幡宿・八木宿・大横町・本郷宿・久保宿（現日吉町付近）・嶋之坊宿（現日吉町付近）・小門宿・上野原宿・馬乗宿（現南町付近）・子安宿」の総称。
 多摩郡由木領のうち、八王子城落城後、城下にあった横山・八日市・八幡の三宿を移設、のち八木宿を加えさらに甲州街道整備にともない十五宿となった。当初は八王子総奉行大久保石見守長安の居館が構えられ、江戸の直轄領として元禄期（一六八八〜一七〇四）まで奉行支配、それ以降江戸末期までの代官支配となった。慶安年間（一六四八〜一六五二）には甲州街道の宿駅として指定され、しだいに八王子の名を冠するようになった。
 本宿は横山・八日市の両宿で、他は加宿または脇宿と呼ばれた。甲州街道において甲府と並ぶ大きな町で、

宿場町としてだけでなく在郷町としても発展し、明治初期の変遷をへて明治二十二年（一八八九）八王子町となった。



横山十五宿絵図（八王子郷土資料館）

① JR 中央線八王子駅

旭町

現在、八王子市の表玄関として、JR 中央線・横浜線・八高線の三線、バスターミナル、駅ビルを擁し、東京西部、多摩の主要交通や商業機能の要となっている。

明治二十三年（一八九〇）八月、甲武鉄道が明神町に開業。明治三十四年（一九〇一）八月、八王子と上野原間が開通した。この間、最近まであった多摩相互病院の場所に駅舎があった。明治三十九年国有化。次いで、明治四十一年、横浜鉄道が八王子と東神奈川間を開通させ、大正六年国有化。昭和五年（一九三〇）中央線浅川駅（現高尾駅）まで、電化され、翌年、八高線の八王子と東飯能間が開通した。

昭和二十年（一九四五）八月、太平洋戦争の戦禍により駅舎を焼失。戦後二十四年、南口を開設、翌年四月、現在地に移転した。その後、オ

イルターミナルの営業、駅ビル建設、南北通路の開通など発展し続けている。

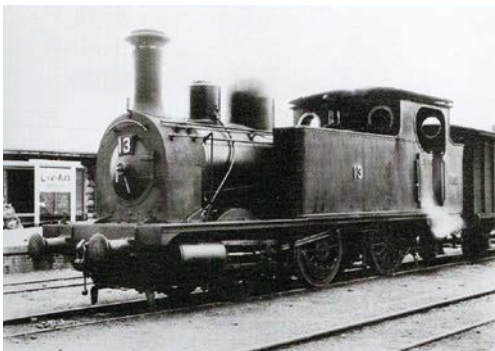
昭和六十二年（一九八七）、国鉄から東日本鉄道（株）に移行。JR 八王子駅として再発足、平成元年に八王子駅百年を迎えた。



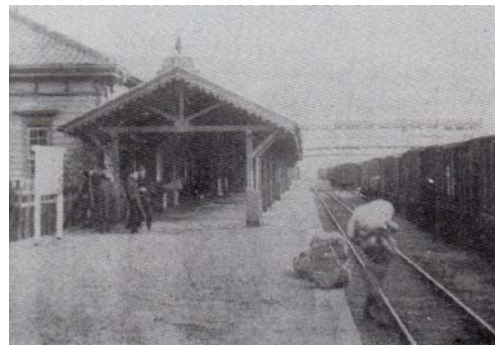
現在は駐車場になっている
旧 JR 八王子駅のあった場所
（今より約 50m 西、）



旧八王子駅北口前



甲武鉄道 13 号蒸気機関車
（八王子郷土資料館）



八王子停車場構内 明治 43 年
（八王子郷土資料館）

②甲武鉄道跡

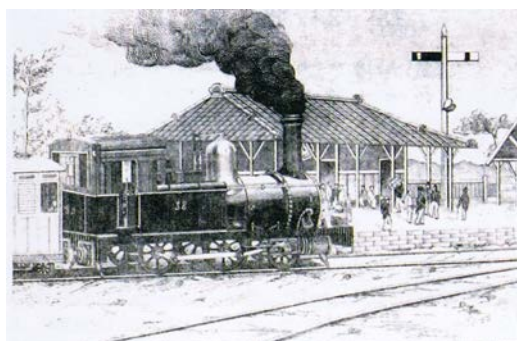
明治二十二年八月十一日、新宿く八王子間開通。当初、新宿く調布く府中と甲州街道沿いに計画されたが、宿場の衰退や桑の木の子育に影響するとして反対運動が起り、現在の中央線の路線で建設が行われた。

当初新宿く立川間二十七・二kmが明治二十二年四月一日開通。次いで八月立川く八王子間が開通した。この時、新宿く八王子間は一時間三十分かかった。機関車は英国製のIB Iタンクの機関車を使用した。

当時の甲武鉄道の駅は、明神町三丁目の旧東京都繊維試験場敷地内にあった。東京府立織染学校跡が残っている。この学校は、後の都立八王子工業高校、現都立八王子桑志高校の前身である。



甲武鉄道
ロゴ



八王子停車場の図 明治 22 年
(八王子郷土資料館)



地図「八王子」二万五千分之一
大正 14 年発行
(八王子郷土資料館)



東京府立織染学校之跡
平成 21 年撮影
(八王子郷土資料館)



甲武鉄道建設時の煉瓦暗渠
平成 16 年撮影
(八王子郷土資料館)

③子安神社

明神町四一十一三

祭神 木花開耶姫命

相殿 天照大御神・素盞鳴尊

大山咋命・奇稻田姫命

攝社 金毘羅神社（大物主命）

末社 厳島神社・稻荷神社・白山神

社・御嶽神社・祖霊社・葦船社・

石神社・第六天社・水神社

社宝 天文二十二年寄進の懸仏十

一面観音像）



東京都立繊維工業試験場

開創 天平宝字三年（七五九）
例祭 九月二十三日

子安神社の由緒は、八王子市最古の歴史を持ち、千二百余年前の奈良時代、天平宝字三年（七五九）橘右京少輔が勅命により皇后の安産祈願のため創建したと伝えられている。以後、安産の神として近郷の崇高はもとより古来武将の尊崇を拝していた。平安時代、八幡太郎義家が奥州下向のみぎり、戦勝祈願して樺十八本を奉納。これを舟形に植樹した事により、以後この森は船森といわれている。その後、鎌倉時代末期には楠正成の居城で、難攻不落とされた赤坂城合戦の折、勇士として太平記の美文に綴られた人見四郎入道光行寄進の神櫃（しんぎ）がある。

近世では、徳川三代將軍家光以後代々の將軍家より朱印を受けた事により、三つ葉葵を神社の紋としている。明治五年には、政府より村社に、昭和十八年には郷社に昇格した。古来、八王子が多西郡と呼ばれた多摩

川の西側の総鎮守として崇敬をあつめている。境内には結婚式場葵記念館を併設。



本 殿



鳥 居

●木花開耶姫命

天尊。瓊瓊杵尊の妃神、木花開耶姫命は、燃え盛る産屋の中で無事御子彦火々出見尊を産んだ神話から、古来安産の神として信仰篤く、結婚の神としても知られている。今でも安産祈願のため、岩田帯（斎肌帯）や底抜けの柄杓を領布。育児祈願として、例祭日には、赤ん坊の泣き相撲が行われる。



本殿内



成就後



成就前

底抜けの柄杓

●懸仏（十一面観音像）

八王子市には、中世の懸仏二面が伝存し、市の指定有形文化財に指定されている。

懸仏は、鏡を表す円形の板に立体的な仏像や神像を取り付けたもので、上部に吊環をもうけている。鏡は古来より神器とされていた。平安時代末より、神仏習合の思想や本地垂迹説により、ご神体である鏡に仏像を現し、ご正体として奉納され礼拝対象となったものが懸仏である。銅板製、鑄銅製、鑄鉄製のほか木製のものがある。



懸仏（十一面観音像）

●金刀比羅神社

八王子横山宿に住んでいた家の号を紀伊の字屋李代安太郎が、寛政九年（一七九七）の春、四国讃岐の金刀比羅宮の大神の分霊を受け、我家の蔵に奉斎したが、その後、不思議なことに霊験があらわれた。主は我家に祀ることを恐れ、神ト（神に占う）し、子安神社境内に遷座したところ、家運が開けたという。

金刀比羅神社の御神は、古来より、商売繁盛、開運厄除け、また、交通安全の神として敬われている。

また、子安神社本殿は、明治の八



天文二十二年（1553）銘
の懸仏

王子大火、大東亜戦争にも焼失を免れており、火難災難除けとして霊験あらたかとされている。



厳島神社



金毘羅



神水殿



葦船神社内部



葦船神社

【子安宿】

江戸期から明治初期にかけての宿名、八王子十五宿の一つ。横山宿の南、子安村の地内にあった。本宿の横山・八日市両宿の加宿、明治十五年（一八八二）八王子子安町となる。



末社の神々



木花開耶姫像

●子安村

江戸期から明治初期にかけての村の名、多摩郡由井領のうち、村名は鎮守子安明神社による。高札場は小名本村にあった、宝もく寺塚は昔の寺院跡と伝え、八王子から片倉村へ通じる道の脇に鉦打塚があった。明治十五年（一八八二）八王子市子安町となる。

●子安町

明治十五年（一八八二）から大正六年（一九一七）まであった町の名。町村分合による八王子の成立にともない、もと子安宿が八王子子安町となり、明治二十二年（一八八九）明神町となる。

大正元年（一九一二）十月一日町名改正により、それまでの元子安町を改称してできた町。江戸期の子安村、大正六年（一九一七）の市政施行をへて現在の子安町一〜四丁目となり、のち一部の京王線以東の地域

が北野町に編入された。

●子安町一〜四丁目

市の東部、JR中央線八王子駅の南から子安丘陵にかけて位置する。昭和四十三年（一九六八）それまでの子安町に住居表示を実施して成立。北はJR中央線、東は京王線、西南は国道十六号線で限られ、北部を山田川が東流、東部から野猿街道が入る。中心市街地の南部に隣接して広がる住宅地。

一丁目はJR八王子駅の南口駅前にあたり、商店、金融機関が立地。清流寺があり、農業改良普及所、食肉処理場あった。

二丁目に子安市民センター、第六小学校、第三中学校、六本杉公園、市営子安住宅、子安南郵便局。

三丁目に八王子医療刑務所、東電片倉変電所。

四丁目に八王子税務署、子安公園、子安郵便局、興林寺がある。

●旭町

JR八王子駅とその北口周辺の小地域で、市の中心に位置する町。大正元年（一九一二）十月一日、町名改正で成立。大正六年八王子市制の施行後も町域は変わらず、昭和四十年住居表示の実施を経て現在に至っている。子安宿の一部である。

●明神町

大正元年（一九一二）十月一日、町名改正により、それまでの子安町を改称して成立。江戸期の八王子横山十五宿のうちの子安宿の大部分をしめていた町名は子安大明神が由来とされる。

大正六年八王子市制の施行を経て、昭和四十四年から四十九年にかけて住居表示を実施。現行の明神町一〜四丁目、大和田町三丁目の一部になった。後、八高線南部に残されていた細長い地域が北野町に編入された。

●子安橋

今の、とちの木通り旧道、山田川に架かる橋。子安町にあり、昭和五年（一九三〇）架設。

●元子安橋

JR横浜線高架橋脇の山田川下流に架かる橋。子安町にある。昭和五十三年（一九七八）完成。



山田川に架かる子安橋



●子安公園通り

子安橋の脇、子安公園の南側に走る通りの名。東は野猿街道から西は国道十六号線までの区間を呼ぶ。



子安公園

●子安坂

子安町にある坂、JR八王子駅南口から南へ向かう街路にあり、最高点は高さ一三八・八m、バス停子安坂上がある。旧道は同町四丁目にある興林寺の門前を通り八王子医療刑務所の東側を登っていた。

●子安丘陵

湯殿川水源近くの三四二・七mの小峰を起点として湯殿川左岸に横たわり、子安町まで達する丘陵。多摩川丘陵の一支脈で、湯殿川と南浅川の分水稜をなす山田川によって二脈に分かれ、北側のそれを散田丘陵とよぶ、中央部にめじろ台住宅ができ、その南には柵田遺跡群がある。

●子安学舎

子安村、第三十七番子安学舎と称し、明治六年（一八七三）創立、廃校年代は不詳。

●子安三丁目遺跡

子安町三丁目、縄文遺跡時代早く中期・平安時代、南浅川・山田川右岸の段丘上に立地し、狭小な面積の調査にもかかわらず縄文時代の中期の住居跡が密集して検出された、周

辺には大規模な集落が存在したことが想定される。「子安三丁目遺跡（集合住宅マドレーヌ地区）発掘調査報告書 一九八六刊」

参考

中野山王子安神社

祭神 木花開耶姫命

例祭 八月第三日曜日

創建 不詳

一説には北条氏照が子孫繁栄のため創建したとも伝えられている。旧村社。境内の神泉は安産子育の霊水として崇敬されている。現在の社殿は昭和三十三年（一九五八）に再建、商業の祖神を相殿に奉斎、境内社の久須志神社は医薬の神様として知られている。

④安楽山明王院福傳寺

明神町

宗派 真言宗 智山派

本尊 不動明王

寺宝 十一面観音坐像

釈迦三尊掛軸

釈迦涅槃像掛軸

開山 賢栄上人と伝えられる

開創 天文元年（一五三二）以前

多摩四国八十八所霊場七十七所・武相観音第十五番札所。江戸期には子安明神の別当。古本堂は明治初期に倒壊。境内西方にあった元禄十四年（一七〇一）建立の観音堂を使用していたが、明治十三年（一八八〇）清水寺を合併、現在地に移転した（旧寺地は子安町）。太平洋戦争の際本堂が大和田東光寺の本堂に転用された。のち本堂は明治二十年に清水寺の観音堂を使用して再建され、近年再び修復された。この観音堂の十一面観音は子安観音といわれ、安産・子育の観音として信仰をあつめる。



福電寺堂内



安榮山 明王院 福電寺

● 廃仏毀釈

本堂の脇にある観音堂には、十一面観音坐像が安置されている。この観音坐像には、両腕や十一面もない。他の仏像にも片腕がなかったり、顔に大きく傷がついている。

住職は「ここにある傷付いた仏像はみんな廃仏毀釈、神仏分離（神仏判然令）によって投げ捨てられ、埋められたりしたのを掘り起こし、拾い上げ安置しています。この外にも沢山の貴重な文化財が焼かれていまして」と話されていた。

この宗教政策は維新直後の明治政府が推し進めたもので、慶応四年（一八六八）三月、神仏分離令など神道国強化をめざして行われた。この一連の政策により神仏習合を否定し、神道を仏教から独立させたことである。神道家などを中心に各地で寺院・仏像の破壊や僧侶の還俗強制などが起きた。因みに興福寺の塔は二十五円で売り出されるなど、この分離令に

より貴重な文化財が多く失われた。



六面体地藏



傷ついた仏像

●新井玉蔵の墓

福傳寺境内の本堂手前右に3m程の赤い煉瓦の墓がある。長沼で煉瓦工場を経営していた新井玉蔵の墓。

煉瓦工場は明治三十年（一八九七）四月十五日八王子煉瓦製造会社として創業を開始した。煉瓦製造の主な目的は、八王子から甲府まで鉄道工事に使用するためだったという。中央線上下のトンネル工事には八王子産煉瓦が大量に使われたことである。現在、長沼町根来家のレンガ塀、両界橋手前にあるJRのレンガ隧道などが昔の面影を残している。



新井玉蔵の墓

●栃健の碑と墓

福傳寺境内の本堂手前右に大きな秩父石の碑がある。

右に「常住院宝泉繁能居士」

左に「常喜院宝室妙栄大姉」

と刻まれている。裏側にも、栃健次郎の名と土岐ミネの名がある。

彼は小仏辺りの交通を縄張りにしており、一時八王子の御殿峠にも住んでいたという。

ちなみに浅川の落合には関東無宿綱五郎。小金井には小金井小次郎など、幕末前後から甲州街道の宿場には、親分と呼ばれる任侠者が幅をきかせていた。



栃健の碑と墓

●詩人・三好豊一郎の墓

大正九年（一九二〇）八月二十五日横山町に生まれ、十七歳の頃より現代詩を書き始めた。府中二商、早稲田大学専門部を卒業。詩人の田村隆一、鮎川信夫らと交わりを持つ。昭和二十四年（一九四九）詩集「囚人」を、昭和三十八年には「小さな証」を現した。「夏の淵」で、第十四回高見順賞を受賞した。平成元年に「寒蟬集」を出版。平成四年十二月、七十二歳で没。福傳寺に眠っている。



三好禮一郎



三好豊一郎の墓



書 斎

⑤京王東八王子駅

かつて明神町にあった京王八王子駅の前身。大正十四年（一九二五）三月二十四日玉南鉄道（玉南電車）開通に伴い東八王子駅、府中間の始発駅として甲州街道に面した場所（現、西東京ビル）に開設された。翌年十二月四日玉南鉄道は京王電気軌道（株）に合併され、新宿まで直通の始発駅となった。戦後、昭和二十三年（一九四八）六月一日京王帝都電鉄（株）に移行。昭和三十八年十二月十一日現在の京王八王子駅への移転と共に京王八王子駅と改称し東八王子駅の駅名は消えた。

また、京王線は旧御稜線の一部を延長させ、北野、高尾山口駅八・六kmを新線として昭和四十二年十月開通させた。

近頃では、通勤利用客も増え、特に高尾山などへ行く行楽客も倍増している。



玉南電車八王子駅（大正 14 年）



旧八王子駅に建つビル

⑥南多摩高等学校

明神町四丁目

第七学区（第七十一グループ）、普通科。前身は横川榎子（うめこ）女史により創立された八王子女学校を受けて、明治四十一年（一九〇八）五月一日、府立第四高等女学校として創立された。

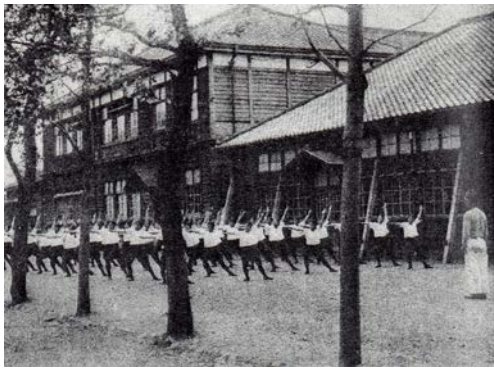
明治四十四年二月本科就業年限を四カ年とし、技芸専修科を廃止、三カ年の実科を新設。昭和三年（一九二八）実科を廃止、本科に統一した。昭和十二年に補習科を新設、更に昭和十八年就業年限が四カ年となり、併せて補習科を廃止、専攻科を新設した。

昭和十八年（一九四三）都立第四高等女学校と改称、昭和二十年八月太平洋戦争のため全焼。同九月には第六・第八・日野七生潤徳の各国民学校と大善寺に分割して授業を開始した。

翌二十一年三月には、昭和天皇の

三多摩視察のおり、臨校、同年四月定時制を新設。昭和二十三年四月東京都立第四女子新制教育高等学校と改称、新制中学校を併設した。

昭和二十四年男女共学、更に二十五年一月都立南多摩高等学校と改称している。昭和五十六年公開講座を実施、同六十年帰国子女校としてのコースを新設した。現在は南多摩中等教育学校となり、平成二十六年に高校は廃止される予定である。



東京府立第四高等女学校
昭和3年 創立二十周年記念

●横川榎子

嘉永六年（一八五三）から大正十五年（一九二六）一月三日。女子教育の先覚者。明治十一年（一八七八）三月、東京女子師範学校付属幼稚園に保母見習として勤め、同年十二月付属幼稚園保育法を終了。見習から正式に保母となり、同十四年付属幼稚園教員となる。

父死亡のため、明治十七年十二月帰郷。はじめ横川町の自宅に女子教習所を設置。明治二十一年（一八八八）成内頼一郎夫婦の尽力により、横川町に教授所を移す。明治二十四年（一八九一）本立寺住職及川真能の好意により上野町四番地（現天神町）に二階建て校舎を建設し、翌明治二十五年十一月当時多摩地域の所属した神奈川県認可をうけ、私立八王子女学校・八王子幼稚園を開校。しばしば経営難に陥るが、私財を投じて維持。明治四十一年（一九〇八）三月府立第四高等女学校開設に際し、

すべてを東京府に寄付し、在校生を同校に移籍して十五年の幕を閉じた。

その後、建物は明治四十一年（一九〇八）、青山師範学校第一種教習所に使用、明治四十二年同閉所。同年八王子町立図書館となり、大正六年（一九一七）九月一日市政施行により市立図書館、大正十一年天神町二十五番地に移転するまで長くその役割を果たした。（「明治時代の八王子」八王子市郷土資料館）

なお、昭和十年（一九三五）府立第四高等女学校内に胸像が建てられ、その後、昭和二十年に現在の胸像が再建された。



横川 榎子

⑦市守・大鳥神社

横山町

祭神 倉稻魂命

（うがのみたまのみこと）

天日鷲命

（あめのひわしのみこと）

例祭 二月初午、十一月の酉の日

天正十八年（一五九〇）八王子落城後、八王子の町は現在地に移された。横山宿では毎月四の付く日に、八日町では毎月八の付く日に市が開かれ賑わった。そして、この市の取引の平穩無事を守り、人々の幸せを与える守護神として「倉稻魂命」を祀り創建され、横山市守稲荷と呼ばれた。現在でも毎年二月の初午の日に「市守祭」と呼ばれる例祭が行われている。また、八王子の開祖といわれる長田作左衛門が創祀したとも伝えられている。

その後、江戸時代中期になって「天日鷲命」が配祀。十一月の酉の日に商売繁盛を祈願する「大鷲祭」が行

われ、現在でも「お酉さま」や「酉の市」と称され賑わっている



お酉さま時の鳥居



市守神社 大鳥神社の鳥居



熊手（市守大鳥神社西の市）



お酉さまで賑わう境内



閻魔大王像

⑧新町の十王堂（閻魔堂）

旧元横山町大義寺持。本尊閻魔大

新町

王。創建は明らかではないが、江戸期、八王子宿入口に当たる総門の所、永福稲荷神社西側に建立されたもので、旧市内で十王堂といえ、この十王堂をいつている。昭和二十年（一九四五）八月、太平洋戦争で焼失。平成七年（一九九五）新町会館内に閻魔大王像が再建された。

●閻魔大王について

閻魔堂

新町は、戦国期には十王堂宿と呼ばれ、江戸期には八王子横山十五宿の一つとなった。閻魔堂は、旧甲州街道八王子宿入口にあたる総門の所。一里塚、永福稲荷神社西側の辻に建立され閻魔堂といわれるようになった。閻魔大王は十王の代表なので、十王堂のことを閻魔堂といった。

伝来

閻魔大王は、インドの古い時代の宗教（約三千年前）バラモンの神の一つで死の世界を支配し地獄の罪悪を裁く神となった。ガンダーラ地方から、各地に広まり、中国の漢（約二千年前）へ、日本は鎌倉期（約八百年前）に伝わり、民衆の間に信仰が広まっていった。

服装と役割

閻魔大王は中国宗代（約千年前）の裁判官の服装で王冠をつけ、右手には笏を持ち、怒りの顔つきで、何でも記録してある閻魔帳や、全てを映し出す浄玻璃（じょうはり）の鏡を持つている。閻魔大王は地藏菩薩の化身といわれて、生前の善業・悪業を吟味し罪の軽重を決定する仏様であるとされる。閻魔大王を含む十人の王のことをいい、死後の裁きを担当している。いずれも仏・菩薩の化身とされている。各王が裁きを行う日は、次のとおりである。

初七日	秦広王	不動明王
十四日	初江王	釈迦如来
二十一日	宗帝王	文殊菩薩
二十八日	伍官王	普賢菩薩
三十五日	閻魔大王	地藏菩薩
四十二日	変生王	弥勒菩薩
四十九日	太山王	薬師如来
百日	平等王	観音菩薩

一周忌 都市王 勢至菩薩
三回忌 五道転輪王 阿弥陀如来
計十回の裁きがある。裁きをする十王に対して、祈りを捧げる代わりに、その本地仏をまつるのが法要であり、死者が安心して成仏し、生前の罪などを軽減してもらえるように供養するわけである。



江戸時代から新町に伝わる地獄極楽絵図

⑨ 永福稻荷神社

祭神 倉稻魂命

例祭 九月二日

社伝によると宝暦六年（一七五六）竹の鼻に力士八光山権五郎が勧進したという。甲州街道八王子宿の入り口（竹の鼻）に位置し、江戸からの往来客による信仰が厚かったことを寄進された鳥居、天水桶が今に伝えられている。境内に「横山四日市場」の銘のある、元禄十六年（一七〇三）建立の庚申塔がある。現在の社殿は昭和四十二年（一九六七）再建。例祭は厄除けしようが祭りとして有名。



鳥居

●力士八光山権五郎

八光山権五郎は、江戸時代中期の寛延、宝暦（一七四九〜六三）に活躍した、八王子出身の力士。身長百九十一cm、体重不詳。嶋屋という絹問屋の後継で、商売をしながら相撲



横山四日市場の
銘のある庚申塔



社 殿



力士 八光山権五郎

をとっていたという。当時は、勧進相撲が盛んに行われていた。大阪や京都で開かれる相撲には、自前で出かけたという。日本を東西に分けた相撲番付には、彼の出身は江戸と載っていた。その後、四国、九州と遊歴した八光山は、時の天皇から御盃と絹のまわしを賜っている。
帰郷後、永福稻荷神社境内で相撲興行をしたという。六十二歳で没。その後、近郷の力士達によって相撲が奉納されている。

●しょうが祭り

毎年九月二日に行われる例祭。生姜を奉納し、厄よけを祈願したことからこの名がついたといわれる。現在は、露店で生姜が売られている。例祭には、勧請した八光山権五郎にちなんで相撲大会がおこなわれていたが、昭和二十年（一九四五）の八王子大空襲以降中止されている。この日に限り、行司うちわも売られている。



生姜祭り

●松原庵星布 匳

享保十七年（一七三二）～文化十一年（一八一四）。十二月二十八日没。江戸時代中期屈指の女性俳人。八王子の横山本宿（現、本町）榎本家に一人っ子として生まれ、津戸家から婿をとる。延享四年（一七四七）母が亡くなると、継母仙朝を迎え、俳句の手ほどきを受け芝紅と号した。第一世松原庵白井鳥酔に入門。糸明窓の号を受ける。師没後、同門の春秋庵白雄から指導を受け、天明八年（一七八八）松尾芭蕉の系譜を継ぐ伊勢派三庵の一つ、松原庵を継ぐ。寛政三年（一七九一）八月四日白井鳥酔の忌日に剃髪し尼となる。寛政五年（一七九三）、「星布尼句集」を出し、天下に名を知られるようになった。とくに多摩地方に大きな影響を与えた。

「卯の花や門を過行鏡とき」
没後大義寺に葬られ、墓はのちに都旧跡に指定された。



星布の自画像（大野誠二蔵）

●芭蕉の句碑

「蝶の飛ぶばかり野中の日影かな
貞享二年」
寛政十二年（一八〇〇）榎本星布により建立された。
明治三十年（一八九七）大火で句碑剥落、昭和二十四年（一九四九）九月再建されている。



句碑の剥落した一部が石垣にはめられてある



芭蕉句碑

⑩竹の鼻一里塚

永福神社隣り竹の花児童公園内にある。慶長九年（一六〇四）江戸幕府は江戸日本橋を起点に五街道を整備。一里（約四km）毎に標識として道路の両側に五間四方の塚を築き、その上に榎を植えさせた。

甲州街道の八王子宿の入口にあたる竹の鼻には、十二番目の一里塚として設けられたと伝えられている。

寛政十二年（一八〇〇）俳人松原庵星布によつて芭蕉の句碑が建てられ、日陰塚と呼ばれるようになったという。明治三十年（一八九七）四月の八王子大火で榎と句碑が消失。昭和二十四年（一九四九）九世松原庵により句碑が再建されている。

市内の甲州街道一里塚は武蔵名所図絵によると、この新町竹の鼻と千人町地藏堂の西、駒木野荒井、小仏保薦の四か所にあつた。



史蹟 一里塚跡

●竹の鼻

新町の旧字名、「新編武蔵風土記稿」に「浅川をこへて町に入る所となり、ここに大樹七・八株あり、昔は広き森にして・・・船森とよべり」とある。戦国期には十王堂宿とも呼ばれていた。

【新町】

江戸期から昭和四十五年（一九七〇）までの宿の名。江戸期には八王子横山十五宿の一つで、八王子宿入口にあたり、十王堂があつたことから十王堂宿とも呼ばれた。鎮守は小名竹の鼻の永福稻荷社、十五宿の東端にあたり、宿の惣門の外にあつた。

明治十五年（一八八二）町村分合による八王子成立により八王子新町となり、明治二十二年八王子町制の施行により冠称を廃して再び新町となる。大正元年（一九一二）十月一日の町名改正・大正六年の八王子市制施行時もひきつづき町名は変わらず、昭和四十五年（一九七〇）住居表示実施のさい町域の変更を行い、現行の新町のほか、元横山町・明神町の一部となる。

江戸期以来の町域の一部に現在の新町が誕生した。旧甲州街道が通っている。

⑪大和田橋

八王子市の浅川に架かる橋。明神町と大和田橋を結び甲州街道が通る。江戸時代には、夏は飛び石伝いに渡し、冬は板橋を架設して渡っていた。明治三十八年（一九〇五）木造橋が架設され、関東大震災後、復興計画の一環として昭和二年（一九二七）にコンクリート橋に改架された。その後、昭和十六年、昭和三十五年に改修されている。



大和田橋

●八王子空襲の跡

太平洋戦争の末期、米軍は日本本土への空襲を行い、日本の多くの都市は焦土となった。

八王子も度々空襲を受けたが、昭和二十年（一九四五）八月二日未明の空襲は、B29により無差別に焼夷弾が投下され、死没者四百名以上、負傷者およそ二千名、旧市街地の八〇%以上の家屋が焼失するという大規模なものであった。

これは、八王子が、米軍にとって、攻撃を受けていない都市で適切な情報があったこと、そして、鉄道交通の要所で周辺にある軍需工場労働者の密集した住宅地であると見られていたからであった。

また、同年八月五日、中央線湯ノ花（猪の鼻）トンネル付近で列車が受けた空襲も百八十名以上の死傷者を出すというものであった。

ここ大和田橋の歩道や欄干には、爆撃の跡が保存されている。



大和田橋の欄干に保存されている爆撃の跡
(左) 爆撃の跡 (右) 茶色のタイルが投下された焼夷弾跡

⑫ 八王子ホテル

ニューグランド

大和田町六―一六

かつて、英国のビクトリア女王が七つの海を支配していた頃の慶応三年（一八六七）英国ランカシャー地方、バロフォードの町に「ハイヤーフォードメソジスト教会」が誕生した。それから一世紀以上に渡り人々に愛されながら続いていた。しかし、バロフォードの町が区画整理することになり、教会は姿を消すことになった。そこで、平成八年（一九九六）、八王子ホテルニューグランドが購入。実に九千マイルの距離を越え、かつ莫大な費用をかけて移築したものだ。平成二十六年現在で、七千五百組以上がこのチャペルで結婚式を挙げている。



ステンドグラス



英国で140年以上の時を刻んだ伝統のチャペル



八王子ニューグランドホテル外観

⑬ 大和田河原の刑場跡

処刑場といわれた所には、大きな建物が建ち、振り返る人は少ない。

天正十八年（一五九〇）六月二十三日八王子城の落城により城下はさびれ、代わって甲州街道沿いに新しい宿場ができた。八王子宿である。人口が増えれば犯罪も増える。今も昔も変わらない。

大和田橋を東京に向かい、渡り終えた堤防を左に行くと、右側に処刑された人達を供養するための慰霊碑が建っていた。旧岳南製紙構内跡（現カレッジタウン）で犯罪者を処刑する刑場であった。

すでに江戸時代以前からあったという刑場には、晒し首があったり、つながれ者などがいて、不気味な所だったという。

悪名高かった怪盗大島逸平次は、高幡不動堂で捕らえられ、ここで処刑されている。また八王子総奉行大久保長安収賄？などの罪悪が発覚す

るとその子息である雲十郎も処刑されている。

大和田刑場には検視役人二人、同心一人がいて、竹矢来の仕置場にはエタ非人といわれる人達が、警固に任っていたという。

ところで刑場跡に製紙工場ができからは、死亡事故など事故が多く特に二十八日になると必ずといってよいほど事故がおこり、その日を安全の日に指定したほど。

昭和二十九年に構内に慰霊碑を作り毎年二月二十八日と春の彼岸には供養をしたところ、以後事故はなくなったという。しかし慰霊碑は何時の頃か取り払われている。



以前この場所にあった慰霊碑

⑭水道管橋



現在の慰霊碑跡

甲州街道の大和田橋と秋川街道の浅川大橋のほぼ中間に暁水道管が通っている。長さは百七十一m。橋の袂のプレートには「昭和四十六年六月完成八王子水道局」と刻まれている。現東京都水道局の前身である。この水道管は、多摩川から引いた水を小作や東村山浄水場で浄化され送られてきたもの。八王子市、町田市、日野市などにも送られて、市民の飲料水として利用されている。

⑮元横山公園



水道管橋

浅川大橋北側堤防の外側に元横山公園はある。広さは、約五千²m。昭和三十年（一九五五）十月開園。この場所は、江戸期から暁緑地の内で、この地域一帯は元横山町の共有地に属していた。昭和に入り、八王子市による土地区画整理計画が始まり、市に移管したもの。現在は、大和田七丁目に属している。

◎ 参考資料

- ・ 新編武蔵風土記稿
- ・ 武蔵名勝図絵
- ・ 新八王子市史
- ・ 八王子事典
- ・ 八王子寺院めぐり
- ・ 八王子市郷土資料館資料
- ・ 八王子空襲と戦災の記録
- ・ セピア色の風景
- ・ 八王子発見・路地散歩案内
- ・ 八王子の歴史と文化
- ・ 八王子と鉄道
- ・ らいぶらい
- ・ 日本総合図録
- ・ 八王子観光マップ
- ・ インターネット各ページ
- ・ 昭文社
- ・ 八王子市地図
- ・ 八王子市郷土資料館資料